

## 2024年度 教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部 学科	職位	氏 名
人間健康学部 人間健康学科	教授	尚爾華
最終学歴	学 位	専門分野
札幌医科大学大学院医学研究科博士課程修了	博士 (医学)	予防医学 公衆衛生学

### I 教育活動

#### ○理念・目標・方針・計画（方法）

##### 【理念】

広い教養と深い専門知識を身につけ、少子高齢社会において地域の健康と福祉に貢献できる能力を有する人材を育成する。私がクレドとして掲げる「教学相長をモットーに、自らを磨き続けます」に則り、教員と学生が教えあい、共に成長していくことを理念とする。

##### 【目標】

乳幼児から高齢者まで人間の健康に関する基本的な知識を十分身につけることを目標とする。

##### 【方針】

理論と実践をバランスよく学び、習得した知識を基盤として、応用可能なスキルへ発展させていくことが教育方針である。

##### 【計画（方法）】

教育にあたっては、建学の精神「真に信頼して事を任せうる人格の育成」に基づいた教職員の心構えを基本として、学生のモチベーションを維持し、効果的な指導を心がける。オンライン授業の工夫や、外部講師（ゲストスピーカー）の招聘、学外で行う多様な実践的な学習活動を取り入れる。

#### ○担当科目（前期・後期）

##### （前期）

わたしたちの身体、食と健康、人間健康学、専門演習Ⅰ、専門演習Ⅲ、総合演習Ⅰ

##### （後期）

栄養学、学校保健、健康管理論（人体の構造と機能及び疾病）、小児保健論、専門演習Ⅱ、専門演習Ⅳ、総合演習Ⅱ

#### ○教育方法の実践

- ・オンライン授業において以下の工夫を行った。

オンライン授業（Teams）において、指定される期間中に、学生同士での身体測定など、実践学習の内容を取り入れ、学生が自主的にグループを作って、各自でグループワークができた。

- ・外部講師（ゲストスピーカー）による授業を積極的に取り入れた。

毎年学生から好評である外部講師（ゲストスピーカー）の授業を実施した。本年度も計4名（講義1科目、演習3科目）の現場実務者をゲストスピーカーとして招聘し、学生に様々な視点から学ぶ

機会を提供することができた。

- ・学外の実践活動を行った（名古屋市立大学北千種キャンパス）

学外フィールドワークとして、名古屋市立大学データサイエンス学部横山研究室の協力を得て、健康分野におけるデータサイエンスの実践活動を実施した。2年ゼミ学生がヘルスケア商品の検証実験に参加し、実践的な学習を通じて、視野を広げることができた。

- 作成した教科書・教材

すべての授業において、300枚前後の授業資料（PDF やスライド、動画）を作成した。また、毎回の授業には5～10問からなる課題シートを作成した。

- 自己評価

演習活動において、新たなフィールドワークとして、名古屋市立大学データサイエンス学部と協働したヘルスケア商品の効果検証実験（筋電図測定, AR 学習効果の確認テスト）に学生を参加させ、学び内容の幅を広げたことは大きな成果と言える。また、ゲストスピーカー授業を多数導入して、授業の内容を多彩にしたことで、授業アンケート評価から学生の満足度を高めたと考える。

講義科目では、理解しやすく、復習しやすいよう授業設計を工夫した。オンライン授業（Teams）においては、事前の設定や個別対応など工夫を行い、学生たちがスムーズに受講できたと考える。対面授業において学生らが意欲的に学習に取り組む姿勢が多く見られた。

## II 研究活動

- 研究課題

地域高齢者における美容意識の実態調査および愛知・沖縄・北海道3地域の比較研究

- 目標・計画

### 【目標】

愛知県において2022年度に実施されたアンケート調査の追跡調査を行い、地域高齢者の美容や身だしなみに対するポジティブな意識や態度が主観的 Well-being に関連するか、2年間の縦断量的データを構築の上検証する。更に、沖縄県・北海道において美容意識・行動に関するインタビューによる質的分析も併用し、そのメカニズムを検討する。

### 【計画】

アンケート調査（愛知県）、インタビュー調査（北海道・沖縄県）を行い、論文を執筆する。

- 2017年4月から2025年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

- ・丸岡利則、伊藤龍仁、大勝志津穂、鈴木恵三、尚爾華、孫穎、呂洋、野口泰司、西尾敦史、渡辺弥生、王亜婷、馬利中、劉衛東、金良泰、上條憲二.地域創造研究所叢書 No35『少子高齢社会のヒューマンサービス』唯学書房、2022年12月
- ・尚爾華、丸岡利則、馬利中、李冬冬、劉鳳新、渡辺弥生、鈴木恵三、野口泰司、中山佳美.地域創造研究所叢書 No34『高齢者の保健・福祉・医療のパイオニア』唯学書房、2020年10月
- ・尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邊美貴、鈴木貞夫、中山佳美、森満、馬利中、中野匡隆、丸岡利則.地域創造研究所叢書 No32『高齢社会の健康と福祉のエッセンス』唯学書房、2019年11月

- ・尚爾華、澤田節子、谷村祐子、肥田幸子、中野匡隆、木野村嘉則.地域創造研究所叢書 No27『長寿社会を健康に生きる―地域の健康づくりをめざして―』唯学書房、2017年3月

(学術論文)

- ・ Taiji Noguchi, Erhua Shang, Role of individual social capital in the association of physical frailty with functional ability among older adults. Journal of the American Medical Directors Association. Volume 25 July 2024
- ・ Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Ayane Komatsu, Erhua Shang, Chiyoe Murata, Tami Saito. Role of Interacting and Learning Experiences on Public Stigma Against Dementia: An Observational Cross-Sectional Study. Dementia (London, England) (2023年10月)
- ・ Taiji Noguchi, Erhua Shang. Association of positive attitudes toward beauty and personal grooming with subjective well-being among older women. Geriatrics & gerontology international (2023年9月)
- ・ Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Ayane Komatsu, Erhua Shang, Chiyoe Murata, Tami Saito. Development of a Short Version of the Dementia Stigma Assessment Scale. Asia-Pacific journal of public health 35(6-7) 456-458 (2023年9月)
- ・ Taiji Noguchi, Erhua Shang, Takeshi Nakagawa, Ayane Komatsu, Chiyoe Murata, Tami Saito. Establishment of the Japanese version of the dementia stigma assessment scale. Geriatrics & Gerontology International 22(9) 790-796. (2022年9月)
- ・ 尚爾華、野口泰司、中山佳美.地域在住女性高齢者における現在歯数 20 本未満の関連要因～名古屋市体操教室参加者における調査～. 口腔衛生学会雑誌第 70 巻第 1 号.27-33 頁.(2020年1月)
- ・ 尚爾華、平井一正.中国の大学生における理想体型・生活習慣および健康状況の自己評価についての調査. 名古屋産業大学論集第 34 巻 17-22 頁.(2019年11月)
- ・ 尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、渡邊美貴、鈴木貞夫.女性高齢者の年齢階級別にみた健康状況と生活習慣に関する調査.東海公衆衛生雑誌第 7 巻第 1 号 114-119 頁.(2019年7月)
- ・ 尚爾華、郭芳、楊叶、顧軍、姜丽英、中山佳美.上海市小学生におけるシーラント処置状況に関する調査～一次予防の実施状況と児童の口腔衛生環境について～.東邦学誌第 48 巻第 1 号 59-63 頁.(2019年6月)
- ・ 尚爾華、徐静、王慧華、徐秀婷、王 亜婷、中山佳美.上海小学生における未処置歯の有病状況と治療状況に関する調査～二次予防の実施状況と児童の口腔衛生環境について～.東邦学誌第 48 巻第 1 号 65-70 頁.(2019年6月)
- ・ 尚爾華、王亜婷、馬利中.「中国上海にある医療機関従事者における出産・子育てに関する意識調査～「二人っ子政策」開始 2 年間の現状をふまえて～」『東邦学誌』第 47 巻第 1 号 91～98 頁.(2018年6月)
- ・ 尚爾華.「大学生の食生活実態と食育の課題～朝食の欠食頻度に焦点を当てて～」『東邦学誌』第 46 巻第 2 号 151～153 頁.(2017年12月)

(学会発表)

- ・ 野口泰司、尚爾華、林尊弘. 地域高齢者における社会経済要因とアートエンゲージメント. 第 11 回日本地域理学療法学会学術大会. 2024 年 11 月

- ・ 林 尊弘、野口泰司、尚爾華。地域在住高齢者のフレイルの社会的側面指標における併存的および弁別的妥当性の検証。第 83 回日本公衆衛生学会総会。2024 年 10 月
- ・ 鈴木恵三、飯田恭子、尚爾華、大西浩文。北海道(1982 年)と愛知県(2021 年)の市町村別 3 歳児う蝕有病率。第 83 回日本公衆衛生学会総会。2024 年 10 月
- ・ 鈴木恵三、飯田恭子、尚爾華、大西浩文。岐阜県可児市における人口増が、1 歳 6 か月児う蝕有病者率急減の要因か？第 70 回東海公衆衛生学会学術大会。2024 年 7 月
- ・ 野口泰司、尚爾華。身体的フレイルと生活機能低下に対する個人のソーシャル・キャピタルの緩衝影響。第 8 回予防理学療法学会サテライト集会 2024 年 6 月
- ・ 鈴木恵三、飯田恭子、尚爾華、大西浩文。国民生活基礎調査「日頃健康のために実行している事柄」の 65 歳以上者の実施割合。第 82 回日本公衆衛生学会。2023 年 11 月
- ・ 鈴木恵三、飯田恭子、尚爾華、大西浩文。「国民生活基礎調査大規模調査 1986 年(第 1 回)～2019 年(第 12 回)」に見る、65 歳以上の者の健康意識の割合年次推移。第 69 回東海公衆衛生学会。2023 年 7 月
- ・ 野口泰司、中川威、小松亜弥音、尚爾華、村田千代栄、斎藤民。認知症スティグマ評価尺度の短縮版の作成。日本老年社会学会第 65 回大会。2023 年 6 月
- ・ Taiji Noguchi, Erhua Shang. Art engagement and positive psychological well-being among community-dwelling older adults in Japan: A cross-sectional study. International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress. 2023 年 6 月
- ・ Erhua Shang, Taiji Noguchi. Association between beauty consciousness and subjective well-being among older females: A cross-sectional study. International Association of Gerontology and Geriatrics (IAGG) Asia/Oceania Regional Congress .2023 年 6 月
- ・ Taiji Noguchi, Takeshi Nakagawa, Ayane Komatsu, Erhua Shang, Chiyoe Murata, Tami Saito. Interactions with People with Dementia, Learning Experiences, and Public Stigma Against Dementia . The Gerontological Society of America (GSA) 2022 Annual Scientific Meeting. Indianapolis, America. 2022 年 11 月
- ・ 野口泰司、尚爾華、中川威、小松亜弥音、村田千代栄、斎藤民：認知症スティグマ評価尺度の日本語版の作成。日本老年社会学会第 64 回大会。東京都。2022 年 7 月
- ・ 鈴木恵三、飯田恭子、尚爾華。介護サービス相談員派遣等事業の経過、東海地区(岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)の概況。第 68 回東海公衆衛生学会学術大会。2022 年 7 月
- ・ 尚爾華、野口泰司、北澤一利、中野匡隆、肥田幸子、渡辺弥生、鈴木恵三、森満。介護予防施策としての「通いの場」が参加者の心身に及ぼす影響：アクションリサーチによる事例報告。第 32 回日本疫学会学術大会。東京都。2022 年 1 月
- ・ 鈴木恵三、尚爾華、中野匡隆、北澤一利、森満。ふまねっと運動、東海地方の広がり。第 66 回東海公衆衛生学会。岐阜県各務原市。2020 年 7 月
- ・ 尚爾華。中国「二人っ子政策」による少子化対策の効果に関する一考察—上海市医療職女性における出産・子育てに関する意識調査(第 2 回)の結果から。第 84 回日本健康学会総会。長崎県長崎市。2019 年 11 月
- ・ 尚爾華、野口泰司、中山佳美、森満、中川弘子、渡邊美貴、依馬加苗、鈴木貞夫。2018 年中国上海

市小学生未処置歯の保有と治療状況～学校健診結果と日本の比較～第 78 回日本公衆衛生学会総会. 高知県高知市.2019 年 10 月

- ・ 依馬加苗、中川弘子、渡邊美貴、細野晃弘、柴田清、近藤文、若林諒三、市川麻理、野口泰司、上島寛之、尚爾華、永谷憲司、鈴木貞夫.一般住民における職種と主観的ストレスとの関連:J-MICC Study 岡崎. 第 78 回日本公衆衛生学会総会.高知県高知市.2019 年 10 月
- ・ 尚爾華.中国北京市大学生における健康状況の自己評価と生活習慣・ストレスとの関連.日本ヒューマンヘルスケア学会第 3 回学術総会.愛知県大府市.2019 年 9 月
- ・ 尚爾華、上田裕司.中国都市部大学生の身長、体重、体格指数および理想体型に関する調査. 第 62 回東海学校保健学会学術集会.静岡県浜松市.2019 年 9 月
- ・ Erhua Shang. The integrative analysis of Chinese college students' lifestyles and health. 第 62 回東海学校保健学会学術集会.静岡県浜松市.2019 年 9 月
- ・ 上田裕司、尚爾華. 薬物乱用防止教育に対する中学校教員の意識と関連要因—質問紙調査の分析結果から—. 第 62 回東海学校保健学会学術集会.静岡県浜松市.2019 年 9 月
- ・ 尚爾華、野口泰司、中山佳美、森満、中川弘子、西山毅、渡邊美貴、小嶋雅代、今枝奈保美、神谷真有美、依馬加苗、加藤利枝子、鈴木貞夫.地域在住女性高齢者における現在歯数の関連要因. 第 65 回東海公衆衛生学会学術総会.愛知県名古屋市.2019 年 7 月
- ・ 野口泰司、中川弘子、西山毅、渡邊美貴、細野晃弘、柴田清、神谷真有美、尚爾華、市川麻理、若林諒三、上島寛之、永谷憲司、依馬加苗、山田珠樹、鈴木貞夫.高齢者の就労および働きが健康感に及ぼす影響:5 年間の縦断研究. 第 65 回東海公衆衛生学会学術総会. 愛知県名古屋市.2019 年 7 月
- ・ 尚爾華、加藤利枝子、中川弘子、鈴木貞夫.女性高齢者における年齢階級別健康状況・生活習慣および主観的な健康度に関する調査～名古屋市内にある体操教室の女性参加者を対象に～.静岡県浜松市.2018 年 7 月

(特許)

(その他)

#### ○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況 (学内外)

- ・ 科学研究補助金 (科研費) 申請状況：  
研究代表者分：2025 年度科研費基盤研究 (C) を申請し、採択された。(2025 年度～2027 年度)
- ・ 2022 年 4 月～2023 年 3 月  
全国老人福祉施設協議会令和 4 年度調査研究助成事業 (研究協力者)
- ・ 2020 年 4 月～2023 年 3 月  
愛知東邦大学地域創造研究所少子高齢化社会の健康と福祉の国際比較研究部会共同研究費 (研究代表者)
- ・ 2020 年 4 月～2021 年 3 月  
国立長寿医療研究センター長寿医療研究開発費 (研究分担者)
- ・ 2018 年 4 月～2020 年 3 月  
愛知東邦大学地域創造研究所少子高齢化社会の健康と福祉研究会共同研究費 (研究代表者)

・2016年4月～2018年3月

愛知東邦大学地域創造研究所地域の健康づくり研究会共同研究費（研究代表者）

○所属学会

日本公衆衛生学会、日本ヒューマンヘルスケア学会、日本学校保健学会、日本疫学会、東海公衆衛生学会、日本混合研究学会

○自己評価

愛知県のフィールドにおける調査研究の結果をまとめ、共著者として国際学術誌に投稿し、英文論文1本を掲載することができた。そのほかに国内学会では5題（共同演者）を発表した。

また、上記の調査結果をベースにして、研究代表者として2025年度科研費基盤研究（C）を申請した結果、採択された（研究期間2025年度～2027年度）。今後は新たな調査研究の成果を発信することができると思う。

Ⅲ 大学運営

○目標・計画

【目標】

人間健康学部長として、大学事業計画に基づき、学部運営に尽力する。

地域創造研究所副所長・運営委員会副委員長として、研究活動の活性化に貢献する。

広報委員会委員として、学内外広く発信し、本学の知名度を高める活動に努める。

人事委員会委員として、学部および大学の人事業務に努める。

女子バスケットボール部長として、監督と協力しながら、運営と部員のサポートをする。

【計画】

・学部運営においては、学部長として学部教員とコミュニケーションを取りながら、大学法人、事務局と協力し、学生募集、中退防止に尽力する。

・また、学部の新たな学び分野や学部の特色を検討し、これからの時代の変化に対応できる魅力的な学部を創り上げていく。

・地域創造研究所副所長、広報委員会委員、人事委員会委員、女子バスケットボール部長として貢献する。

○学内委員等

地域創造研究所副所長・運営委員会副委員長、人事委員会委員、広報委員会委員、女子バスケットボール部部長

○自己評価

人間健康学部長として大学事業計画に基づき、学生募集活動および中退防止対策に重点を置き、学部運営に精力的に取り組み、年度当初の目標を達成することができた。また、学長の下、2026年度学部教育の再編を行い、新たなコース制のカリキュラムを事務局と協力して制定した。

地域創造研究所副所長として所長に協力し、研究活動の活性化、発信力の向上に貢献した。また、人事委員会において、教員の公募および審査などにおいて役割を果たした。広報委員会委員として、大学ホームページやリフレットの作成などの広報活動に努めた。大学女子バスケットボール部長として監督と協力し、選手のサポートなど部の運営に貢献した。

#### IV 社会貢献

##### ○目標・計画

###### 【目標】

地域の団体、教育機関、市町村に協力し、学生と共に地域住民との交流を深めていく。

###### 【計画】

講演会の講師依頼を積極的に引き受け、愛知東邦大学の教員として地域との関係性を深めることに努める。地域とのつながりを大切にし、本学の知名度向上に貢献していきたい。

##### ○学会活動等

各学会活動として学会専門誌へ投稿し、学会にて発表した。

##### ○地域連携・社会貢献等

- ・東邦高校 PTA 国際交流部企画講座の講師を 3 年連続して務め、高校生の保証人を対象に健康講座を実施した（東邦高校 2024 年 12 月）。
- ・NPO 法人「ふまねっと」（札幌市）が主催する「ふまねっと運動体験会」を本学会場での開催を誘致し、ゼミ学生 5 名も参加させた。地域住民と情報交換を行った。（愛知東邦大学 2024 年 9 月）
- ・第 35 回愛知サマーセミナー特別講座の講師として本学から依頼を受け、一般市民を対象に健康講座を実施した（愛知大学 2024 年 7 月）。

##### ○自己評価

地域に関わる健康講座や国際交流イベントの講師依頼を積極的に引き受け、愛知東邦大学の教員として地域との関係性を深めることに貢献できた。また、これらの活動に学生にも同行させることで、学生の地域への関心や、社会貢献の意識向上にも教育的な効果が見られた。

#### V その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

プレゼンテーションスキル向上のため、新聞社が主催するセミナーを受講した（東京 2024 年 5 月）。

#### VI 総括

教育面では、オンライン授業と対面授業にそれぞれ独自の工夫をし、授業アンケートの結果から概ね満足できる教育効果と評価された。次年度も継続して授業の創意工夫を行う。研究面では、共著者として学術専門誌に論文掲載（英文 1 本）や学会発表など成果を挙げる事ができた。研究代表者として応募した 2025 年度科研費基盤研究(C)の研究課題が採択され、今後の研究方向性が定まると考える。地域連携・社会貢献の面においては、地域住民への健康増進に関する普及活動、国際交流活動を継続し、関連スキルを高めることが出来た。

大学運営については、人間健康学部長として大学事業計画に基づき、学生募集活動および中退防止対策に重点を置き、年度当初の目標を達成することができた。また、学長の下、2026 年度学部教育の再編を行い、新たなコース制のカリキュラムを事務局と協働して制定した。地域創造研究所副所長、各委員会委員、大学女子バスケットボール部長として役割を果たした。

総括として、本年度は多くの実践活動と新たな試みによって、学生の授業満足度が高まり、研究成果も広く発信することができた。また、人間健康学部長として、管理運営の面において貴重な経験と

大いに学びがある 1 年であった。次年度も率先垂範して、学部および大学の目標達成にさらなる貢献できるように邁進していきたい。

以上